

# Book Preview

富山高校図書館 2024.2



『 双葉文庫 今宵も喫茶ドードーのキッチンで。 』

標野 風【著】

住宅地の奥でひっそりと営業している、おひとりさま専用カフェ「喫茶ドードー」。この喫茶店には、がんばっている毎日からちょっとばかり逃げ出したいくなったお客さんが、ふらりと訪れる。SNSで発信される“ていねいな暮らし”に振り回されたり、仕事をひとりで抱え込み体調を崩したり…。目まぐるしく変わる世の中で疲れた体と強ばった心を、店主そりの美味しい料理が優しくほぐします。今宵も「あなたの悩みに効くメニュー」をご用意してお待ちしております。心がくつろぐ連作短編集、開店。

『 朔と新 』

いとう みく【著】

朔は一年ぶりに家へと帰ってきた。朔と弟の新は、一昨年の大晦日、父親の故郷で正月を迎えるために高速バスで仙台に向かい、バスが横転する事故に巻き込まれた。大晦日に帰省することになったのは、新が母親とぶつかったのが原因だった。本来の予定より一日遅れでバスに乗ったことが、運命を変えたのだ。事故によって、朔は視力を失った。そして、長距離走者として注目を浴びていた新は、ランナーとしての未来を自ら閉ざし、高校に進学した後も走ることをやめた。そんな新に、突然、朔が願いを伝える。「伴走者になってもらいたいんだ、オレの」激しく抵抗する新。だが、事故に巻き込まれたのは自分のせいだという気持ちもあり、兄の願いを断ることはできなかった。かくして兄と弟は、一本のロープをにぎり、コースへと踏み出してゆく。ブラインドマラソンは、兄弟の絆を再生するのか。



『 新潮文庫 泥流地帯 (改版) 』

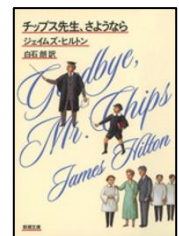
三浦 綾子【著】

大正15年5月、十勝岳大噴火。突然の火山爆発で、家も学校も恋も夢も泥流が一気に押し流してゆく…。上富良野の市街からさらに一里以上も奥に入った日進部落で、貧しさにも親の不在にも耐えて明るく誠実に生きている拓一、耕作兄弟の上にも、泥流は容赦なく襲いかかる。真面目に生きても無意味なのか？懸命に生きる彼らの姿を通して、人生の試練の意味を問いかける感動の長編。

『 新潮文庫 チップス先生、さようなら 』

ジェイムズ・ヒルトン【著】

霧深い夕暮れ、暖炉の前に座って回想にふけるチップス先生の胸に、ブルックフィールド校での六十余年の楽しい思い出が去来する。腕白だが礼儀正しい学生たちとの愉快的な毎日、美しく聡明だった亡き妻、大戦当時の緊迫した明け暮れ…。厳格な反面、ユーモアに満ちた英国人気質の愛すべき老教師と、イギリスの代表的なパブリック・スクールの生活を描いて絶賛された不朽の名作



『 GIVE & TAKE 「与える人」こそ成功する時代 』アダム・グラント【著】

「ギブ&テイク」とは、この世の中を形成する当たりまえの原理原則に思える。しかしこれからの時代、その“常識”が果たして通用するのだろうか―著者の問題提起が、アメリカで大論議を巻き起こしている。人間の3つのタイプである、ギバー（人に惜しみなく与える人）、テイカー（真っ先に自分の利益を優先させる人）、マッチャー（損得のバランスを考える人）。このそれぞれの特徴と可能性を分析したすどい視点。世界No. 1 ビジネス・スクール「ペンシルベニア大学ウォートン校」史上最年少終身教授、待望のデビュー作！！